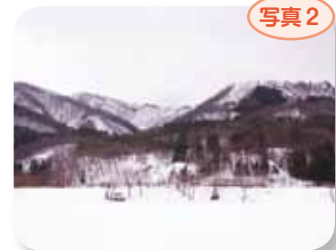


## 雪食地形と モザイク植生

只見町は、ほぼ全域が標高1,000m前後の山地帯で、そこにはブナを代表とする冷温帯落葉広葉樹林が広がっています。この山地帯は、冬季の豪雪と比較的もろい緑色凝灰岩（グリーンタフ）を基岩とする地質的な特徴のために、斜面が雪崩で削り取られ、基岩が露呈し、急峻で複雑な「雪食地形」が形成されています。さらには、こうして形成された急峻な地形と複雑な立地環境の上に、それぞれに適応した植物群集が生育し、植生がモザイク状に配置されています（写真1）。尾根部には筋状に並ぶキタゴヨウの針葉樹林、雪崩斜面にはミヤマナラやマルバマンサクなどの低木林、斜面下部の雪崩によって岩屑や土壌が堆積し比較的安定した立地にはブナ林、沢沿いにはサワグルミやトチノキの溪畔林が成立しています。こうした景観は、標高1,000m以下の山地帯では極めて珍しく、そのほとんどが原生的な状態で、広大な面積にわたって存在しているのが只見町の森林植生最大の特徴です。この大自然は他地域にはない（写真2）、只見町のとても貴重な財産なのです。



只見町伊南川左岸の山地帯に発達する雪食地形とモザイク植生（小川集落より望む）



南会津町伊南川左岸の山地帯（南会津町界より望む）

### 企画展示

#### ○「只見の巨樹・巨木」展

只見町の巨樹や巨木をパネル展示で紹介いたします。  
期間：1月5日（土）～4月15日（月）

### ブナセンター講座

#### ○「只見で出会った巨木たち」

講師：刈屋 寿さん（弥彦山脈植物友の会会長）  
日時：1月19日（土）午後1時30分～午後3時

※この広報紙は再生紙を使用しています



※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

## 第41回只見ふるさとの雪まつり 私たちが「雪むすめ」です…

第41回只見ふるさとの雪まつりを盛り上げてくれる「雪むすめ」2名が決定し、併せて昨年の雪まつりからPRのお手伝いをしているツイト雪むすめ「ケバブちゃん」に目黒町長から12月14日、委嘱状が手渡されました。

今年の「雪むすめ」は「佐藤麻世さん（大倉）」と「馬場美里さん（大倉）」です。二人とも「皆さんに雪まつりを楽しんでいただけるよう、そして只見町の魅力を伝えられるよう頑張ります」と笑顔で話しました。よろしくお祈りします。



右から「佐藤麻世さん」、「馬場美里さん」、「ケバブちゃん」